

05・母乳顔にかけてもらいながら純愛貝合わせセックス

〈シチュエーション〉

本編トラック04の数分後。

三月三十日（土）十三時半ごろ。

結月の治療用に用意された仮想空間の内部……の、最初に結月がいたベッドの上。結月の気持ちを確かめた主人公は、ベッドの上で結月とセックスする。

本編トラック04の、治療目的だったり、興奮や快感を優先したりしていたセックスとは打って変わって、とても恋人らしいあまあま貝合わせセックス。

主人公も結月も、貝合わせはもちろん、セックス自体、今日が初めての経験である。

しかし仮想空間における『バフ効果』のおかげで、『はじめて』らしい気恥ずかしい甘い雰囲気と、主人公のテクニックにより『強い快感が保証された状態』が両立する、不思議なひとときとなる。

ルナの登場はなし。すべて結月のセリフのみ。

場所移動はなし。ずっとベッドでストーリーが進行する。

SE1 部屋の環境音

【最初から最後まで流す】

【繰り返し流す】

【トラック終了まで流し続ける】

【0—5秒ほど流してSE2】

SE2 主人公が結月をベッドに押し倒す音

【最初から最後まで流す】

●正面 30センチ 下 50センチ

■主人公にベッドの上に押し倒され、仰向けになった状態で主人公を見上げながら

「【※ずっと下側へ離れていく※ ベッドに倒れていくので。

※息遣いのみ※ で表現する。甘ったるい呼吸】

んっ……。

●正面 30センチ 下 50センチ 正面 0センチ

■興奮のあまり呼吸を荒くしながら、頭を起こして、主人公とキスする

「【※ずっと近づく※

※8回※ 呼吸する。興奮気味の、荒い呼吸】

はあ、はあ、はあ、はあ。

はあ、はあ、はあ、はあ、はあ……。

【※しばらく※ キスする。時々舌を絡ませる。

凄く恋人同士らしい、あまあまなラブラブキス】

ん

ちゅ♡ ちゅ♡ ちゅ♡

んんっふ……れるっ♡

ん♡

れるれるれる……くちゅっ♡

ちゅっ♡ ちゅっ♡ ちゅっ♡

【※息遣いのみ※ で表現する。うっとりとしため息をつく】

はあ……♡

何（なん）か……不思議な感じ……♡」

〈主人公〉

「んっ？ 何が……？」

● 正面 30センチ 下 15センチ

■主人公にベッドの上に押し倒され、仰向けになった状態で主人公を見上げながら。先ほどよりも距離が近い。

過去の話、というか、疎遠になるきっかけとなった出来事について話し始める。

これは本当なら『なかった事』にして、刹那的な快感や幸福感を優先した方がいい所である。

だが、結月の性格上、それがどうしてもできない。

この件について改めて話し合い、清算しておかないと気が済まないのである。

『そうしないと、本当に心の通ったセックスはできない』と思っているからだ。

つまり結月はこっそり、先程のセックスをノーカンにしている。

先程のそれは、あまりにも自分の要求を押し通すだけの行為だったからである。

『さっきのはいけなかった。あまりにも身勝手な行為だった』と反省する気持ちと、白黒つけないとスツキリできない生真面目な性格が、結月をこの行動に走らせる

「ちよつと切り出しにくそうに。」

ちよつと、かわいくふてくされた感じで」

……だって私達、凄くちよつとした事で喧嘩して……長い事話しもしなくなっちゃってたじゃない。

なのに今こうしてるの、不思議だなあって」

〈主人公〉

「あれ、なんでだったっけ……」

主人公、途端に目を泳がせてしらばっくれる。

一見しれっと嘘をついているようだが、明らかに不自然である。実に主人公らしくない反応だ。

本当は無論、当然、完全に全部覚えている。忘れるわけがない。

だが、喧嘩の理由があまりに幼稚で自分に問題がありすぎたせいで、『なかった事』にしかなくなっているのである。

●正面 30センチ 下 15センチ

「かわいく、ちよつとすねたように。」

『しらじらしい。本当は絶対覚えていくせに』という感じで」

……覚えてないの？ 去年の十二月の事よ。

貴方がね、私の買ったばかりの猫ちゃんのスマホケースを『子どもっぽい』って言ったの。

「かわいく、ちよつとむつとした様子で。」

思い出すとちよつとムカムカして来るので」

それがきっかけよ」

〈主人公〉

「ああ……」

●正面 30センチ 下 15センチ

「※小さく息をついてから※ 話す。

『……』部分が小さなため息のイメージ。

ちよつとすねたようにしつつも『我ながら本当にしようもない事で喧嘩したな、私達……』
という感じで、自分に多少呆れているような雰囲気も混じり出す」

……私、あれ、凄く気に入ってたから許せなくて。

すぐくムカーつときて……。

『『ねえ、もう嘘つかなくていいわよ。本当は覚えてるでしょ』という感じで』

……ほんとに覚えてないの？」

〈主人公〉

「いや……ほんととは覚えてる。

その節は申し訳ございません」

●正面 30センチ 下 15センチ

「『かわいく、ちょっと呆れた様子で。自分の想像通りだったので』
ほら、やっぱり覚えてるんじゃない。
バレバレの嘘なんてついちゃダメよ」

〈主人公〉

「はは。」

人の持ち物にケチつけるなんて、私の方がよっぽど子どもじやんって話だよね」

●正面 30センチ 下 15センチ

「『かわいく、ふんぶん怒る。』

聞き手が『明らかに本気で怒ってはいない。だが、簡単に許すのは癪なので』『ちょっと怒っている風』にふるまっているのだな』とわかる感じで」

ほんと！

人の持ち物にけちをつけるだなんて、貴方の方がよっぽど子どもだと思うわ！」

〈主人公〉

「……あのね」

●正面 30センチ 下 15センチ

「【きょとんと不思議そうに。主人公が急にまじめなトーンになったので】
うん？」

〈主人公〉

「あれはさ、ほんとに可愛いつて思ってたんだ。
私も欲しいって思うくらい」

●正面 30センチ 下 15センチ

「【素直に驚いて。まさかそんな真相があったとは考えた事もなかったので】
……え？」

〈主人公〉

「でも、あのケースって、猫耳生えてるし、中に何か綺麗なシヤカシヤカ入ってるし。
おまけにピンクでしょ？
ゆづはともかく、明らか私のキャラって感じのデザインじゃなかったじゃん。

だから羨ましくて、つい意地悪いっちゃったんだよね。
……マジごめん」

●正面 30センチ 下 15センチ

■『本当は可愛いと思っていた』という言葉が嬉しく、一気に食いつく。

実はこの件については、主人公も知らない事実がもう一つあったからである。実は結月はこのケースを、色違いで二個買っていた。

当初は二つとも、自分で取り換えながら使うつもりで購入した。

だが、ふと『もし主人公とお揃いで使えたら素敵だなあ。一度見せてみて、もしかわい
いと言ってくれたら、勇気を出してプレゼントしてみようか』と思っていたのである。

だが、実際の主人公は『子どもっぽい』であった。

結月は、ケースを見せるまでのドキドキと期待を、ぶち壊されたという訳である。
なのでこの時、必要以上に怒ってしまったのである

「【声が明るくなる。素直に驚いて食いつく】
そうなの？」

【少し間をあけてから。

※ひそひそ声で※ 話す。 同じ距離感で、赤文字部分をひそひそ声で話す。
ちよつとニヤニヤと。

いつも余裕ぶっている主人公の、年相応な可愛らしい一面が見られたので」
ふーん……。

本当は可愛いと思ってたんだ」

〈主人公〉

「うん」

●正面 30センチ 下 15センチ

■『という事は……』と、急に当時の主人公の心境が理解できてくる

「【かわいく、ちょっと呆れた様子で。自分の想像以上に、主人公が子どもだったので】

……て事は、ほんととは自分も『いいな』って思ったのに、恥ずかしくて真似できないから『子どもっぽい』なんて言ったの？

最悪。ほんとに貴方の方が子どもじゃない」

〈主人公〉

「うん、ガキ。

完全にすっぱいぶどう理論だね。バカみたい。

……ほんとに、バカな事したなあ」

●正面 30センチ 下 15センチ

■素直に謝罪する主人公を見て、過去のわだかまりが一気に溶けていく気分になる。

しゅんと申し訳なさそうにしている主人公が、愛おしくてたまらない。

自然と優しい声になる。

そして、当時の出来事の続きを述べる

「【※小さく息をついてから※ 話す。

『……』部分が小さなため息のイメージ。

声が優しくなる。『我ながら本当にしようもない事で喧嘩したな、私達……』という感じで、自分に多少呆れているような雰囲気も混じり出す」

……まあ、私もガキだから。

あの後、貴方がメッセージでちゃんと謝ってくれたのに、ムカついて『バカ』とか返しちやって」

〈主人公〉

「……………」

●正面 30センチ 下 15センチ

「ちよつと声のトーンが下がる。

自嘲気味に。自分で自分に呆れている感じで」

……そんな事したら、返事もえらないのも当たり前だし。

そのまま、先週まで意地張って話さないって、バカは私よね。

別の学校に通ってるって言ったって、いくらでも会ったり、話したりする方法はあったのに」

〈主人公〉

「……ゆづ、あれはね」

●正面 30センチ 下 15センチ

■主人公の罪悪感を、少しでも取り払いたい。

なので、のちに、主人公の母親から聞いた、当時の主人公の事情について述べる。結月は主人公から返事が来なかった件について納得していると伝えたい

「優しい声で。

『ああ、わかっているわよ』という感じで」

うん。知ってるわよ。

その頃、貴方の家、おばあちゃんが怪我して、凄くバタバタしてたんでしょう？

返事どころじゃないのも当たり前よ。

……納得してる。ていうか、私が悪いし」

〈主人公〉

「……………」

●正面 30センチ 下 15センチ

■自分なりに、主人公という人物を解釈して述べる。

今日の約束の事も、当初は感情的になり、また、自分に自信がないがゆえに『忘れたのか』『すっぱかされたのだろうか』と思う事もあった。

だが、冷静になればなるほど、主人公が約束を破るとは思えない。

必ず何か理由があるはずだと、今は思える

「優しい声で。

ちよつと理解しかねる事はあるが、結月はそんな主人公を好ましく思っているのでも貴方って、いつもそういう……やむを得ない事情があっても、言わないわよね。今日遅れたのだって、ほんととは、何（なに）か理由があつてのものなんでしょう？でも『言い訳するなんてカッコ悪い』とか貴方は思ってるの。

言ったら楽になれるのに、絶対言わないの。

「かわいく、ちよつと冗談っぽく」

「……やっぱりバカかも」

〈主人公〉

「……………」

●正面 30センチ 下 15センチ

■改めて主人公に告白する。今日の出来事を経て、とても素直な気持ちで主人公を好きだ
と思い、また、言葉にできるようになったので

「【とても優しい声で。素直な気持ちで、心を込めて主人公に想いを伝える。

『こうなれて』 Ⅱ 『わだかまりを解き、良い関係に戻った上で想いを伝えられて結ばれる』。

※特に聞き手がドキツとするようにお願いします」

でも、私はそういう貴方が好き。

ずっと前からずっと好き。

今日だって気まずいでしょうに、私が一番困ってる今、こうして来てくれた。

私は貴方の、そういう所が好き。

何（なん）だか凄く、遠回りしちやった気がするけど……。

今、会えて。こうなれて、凄く嬉しい。
好きよ。大好き。

だ〜いすき……♡」

〈主人公〉

「……うん、私も」

●正面 30センチ 下 15センチ

「【とても優しい声で続きを促す】
ん？」

〈主人公〉

「ゆづの言う通り、えらい遠回りしちゃったけど。
ゆづの事が好きだよ。
私にできる事は何でもするから」

●正面 30センチ 下 15センチ

「【とても優しい声で】

…ありがとう。

【思わず笑ってしまう。

本当に主人公は今日ずっと『自分にできる事は何でもする』を実行し続けてくれたので」
ふふ。その言葉、貴方が言うと言得力ありすぎ」

〈主人公〉

「どれよ」

●正面 30センチ 下 15センチ

「【少し笑ってしまいながら、幸せそうに】

『私にできる事は何でもする』ってやつ。

【とても優しい声で】

…：：：本当にしてくれたね。

【とても嬉しそうに。幸せそうに】

嬉しい…：：：♥

●正面 30センチ 下 15センチ→正面 0センチ

【※すっと近づく※ 自分からキスするために近づく。

※5回※ キスする。恋人同士らしい、あまあまなキス】

ちゅ♡　ちゅっ♡　ちゅ♡
ちゅっふ……くちゅっ♡

【ちゅと恥ずかしそうに。

この後、とうとう本当にセックスしそうな流れだが、自分からはっきりとそう言うのは
恥ずかしいので】

……えっと、じゃあ、その……」

〈主人公〉

「……………」

SE3　主人公が起き上がる音

【最初から最後まで流す】

SE4　主人公が服を脱ぐ音

【最初から最後まで流す】

主人公、一度離れると、無言で服を脱ぐ。
結果、結月も少し離れている。

〈主人公〉

「……ふう……」

●正面 30センチ 下 50センチ

■服を脱いでいく主人公を思わず凝視する。

これまで幾度か裸を見た事はあるが、これまでのそれと今服を脱いでいる事は、まるで意味合いが違ってドキドキするので

「【※すでに少し離れている※ 主人公が自分から離れて服を脱いだので思わず息をのむ。少し恥ずかしそうに】

あっ……」

〈主人公〉

「あっ、って何さ」

●正面 30センチ 下 50センチ

■途端に恥ずかしくなり、もごもご言葉を詰まらせる。
これからセックスする実感がわいてくる

「どきまぎと恥ずかしそうに。

一行ごとに少し間があく感じで。

思わず素直な感想を述べる。『こういう身体』 Ⅱ 『服を脱ぐと、こういう体型』
あっ……えーっと。

貴方って、こういう身体、なのね。

……こういう身体、してたんだなあ、って……」

〈主人公〉

「ええ？ 今になって言われると、恥ずかしいんだけど」

●正面 30センチ 下 50センチ

「かわいく、ちよっとコミカルに、あまあまに。

『それを貴方が言う？ 私がすでに、どれだけ恥ずかしい事になって来たと思っているのよ？』という感じで。

『絶対言えないと思ってた事』 Ⅱ 『主人公への想いや、自分の性癖』

そんな事言ったら、私はずっと、もーっと恥ずかしいわよ……♥

会った瞬間から裸だし、絶対言えないと思ってた事全部言わされちゃうし。

もう隠す事なんてないって思う位……。

【かわいく、ちよつと強めに迫る。

少し強気になっている。『その位いいでしょう！』という感じで」
だから、貴方のも見せてくれたっていいと思う。見せてよ」

〈主人公〉

「まあ、それもそうか」

SE5 主人公がさらに服を脱ぐ音

【最初から最後まで流す】

●正面 30センチ 下 50センチ

【思わず息をのむ。少し恥ずかしそうに】

あっ………
♡

【どきまぎと恥ずかしそうに。

一瞬強気になったものの、すぐにまた恥ずかしさが勝ってしまったので」
ほんとに、ほんとにするわよね、そういう時。貴方って」

〈主人公〉

「嫌だ？　そういうの」

●正面　30センチ　下　50センチ

「【照れつつも、嬉しそうに】

ううん、嫌じゃない。

【少し間をあけてから。

真剣に思いを伝える】

…好き」

〈主人公〉

「じゃあ、しちゃうからね」

SE6　主人公がベッドで動く音

【最初から最後まで流す】

●正面　30センチ　下　50センチ

「【どきまぎと恥ずかしそうに。

かなり緊張している。

一行ごとに少し間があく感じで」

うんっ………

き。

……来て？」

〈主人公〉

「………」

SE7 主人公がベッドで動く音2

【最初から最後まで流す】

●正面 30センチ 下 50センチ

■貝合わせセックスをするために、主人公が結月の左足を、根元から抱えるようにして持つ。

想像していたよりもさらに恥ずかしい格好なので、思わずドキドキする

「【びくっと小さく喘ぐ】

………あ

【ものすごく恥ずかしそうに。まさか、こんな体勢になるとは思っていなかったの】

え、あ、足ってこんな深く持つの？」

〈主人公〉

「わかんない。私も初めてだから」

●正面 30センチ 下 50センチ

「【ものすごく恥ずかしそうに。困った様子で。心の準備ができていないので】

あの、あの、そのっ……♡」

〈主人公〉

「でもたぶんこう。……エロ動画知識だけど。

これ位深く持たないと、うまく交差できないし、擦り付けられないじゃん？」

●正面 30センチ 下 50センチ

■この状況について感想を述べる。主人公のいう事はもっともだし、これが恐らく正しい体勢だと思うが、それはそうとして非常に恥ずかしい

「【ものすごく恥ずかしそうに。困った様子で。】

心の準備ができていないので。

一行ごとに少し間があく感じで」

あゝ……。

それはっ、そうなんだけど……。

これ、凄い……貴方のものって感じだし。

やっぱり恥ずかしいっていうか……。

ほんとにしちやうんだな、っていうか……。」

〈主人公〉

「まあ、その辺は任せてよ。

だって今の私ってさ、これ系の事にバフかかってるでしょ？」

●正面 30センチ 下 50センチ

「【可愛く聞こえる範囲で、思わずすっとんきょうな声をあげる。

主人公の言いたい事はわかるが、頭で理解するのが追い付かなかったのでもうえ？」

〈主人公〉

「こんなするっと上手にできちゃうの、ゆづの願望が反映されてるからじゃん？」

●正面 30センチ 下 50センチ

「【ものすごく恥ずかしそうに。

でも、なんだか『この件について話せるのが嬉しい』とも思っている様子で。

『こういう事』 Ⅱ 『ラブラブセックス』。

『すごく上手』 Ⅱ 『セックスのテクニクがある』。

『するっとできちゃう』 Ⅱ 『セックスがらみの事を、難なくこなせる』

あく……。

うん。そういうっ♡ 事だと思う。

私が貴方に、こういう事、してほしくて。

『貴方ならきつと、すごく上手なんだろうな』 って。

ずっとそういう事を考えてたからっ♡

今のっ♡ 仮想空間の貴方に反映されちゃってて。

貴方も色んな事が、するっとできちゃうんだと思ううつ……♡

〈主人公〉

「ふーん……。まったく、人にこういうイメージ持ってるんだか……」

●正面 30センチ 下 50センチ

「【恥ずかしそうにしつつも、かわいく反論する。

ちよつとコミカルに】

そ、それはいいでしょ!!

『下手そう』とか『段取り悪そう』とか思ってるんじゃないくて、むしろ逆なんだから!」

〈主人公〉

「……♡」

SE8 主人公がベッドで動く音3

【最初から最後まで流す】

SE9 主人公と結月の性器が擦れる音

【最初から最後まで流す】

【小さめの音量で流す】

【次の『結月』のセリフと同時に流す】

●正面 30センチ 下 50センチ

■興奮した、また焦れた主人公が、身体を動かす。

その結果性器と性器がこすれて、びくつとする。思った以上に気持ちいい

「……小さく、びくつと喘ぐ」

……あ！

【ゆっくり、小さく喘ぐ】

くあ……っ

【※9回※ 呼吸する。

苦しいのではなく、興奮による荒い呼吸。

ものすごく興奮している感じで】

はあ、はあ、はあ。

はあ、はあ、はあ。

はーっ……はーっ……ふうっ……

【ちよつとドキドキと、混乱した様子でたずねる。

『今擦れた？』 Ⅱ 『今、性器と性器が擦れた？』

あ、あ。あ……？

えっ？ い。今擦れた？」

〈主人公〉

「……うん」

● 正面 30センチ 下 50センチ

■ 主人公の言葉を音としては聞きつつも、頭の実解が追いつかない。

『ついに主人公とセックスできる』という興奮で、すぐ余裕がなくなっている

「困ったように、きょとんと聞き返す。状況に追いつけていない」
え？」

SE10 主人公と結月の性器が擦れる音2

「最初から最後まで流す」

「繰り返して流す」

「小さめの音量で流す」

「次の『結月』のセリフと同時に流す」

「▲1 で音量が一段階大きくなる」

「▲2 で一度フェードアウトする」

「▲3 で再開する」

「▲4 で音量と速度が一段階大きく、早くなる」

【▲5 でさらに音量と速度が一段階大きく、早くなる】

【▲6 でフェードアウトする】

●正面 30センチ 下 50センチ

「小さく、びくつと喘ぐ」

あぁっ……♡

【※4回※ 呼吸する。

凄くゆっくり呼吸する。苦しいのではなく、興奮による荒い呼吸。
ものすごく興奮している感じで」

ふーっ……♡ ふーっ……♡ ふーっ……♡ ふーっ……♡

SE11 結月の乳首から母乳が噴射する音

【最初から最後まで流す】

【やや大きめの音量で流す】

【次の『結月』のセリフと同時に流す】

●正面 30センチ 下 50センチ

「低く、小さくびくつと喘ぐ」

“あ”あ”あ”あ……♡

【※3回※ 呼吸する。

凄くゆっくり呼吸する。ものすごく興奮している感じで】

はあ、はあ、はあ。

【高く小さく、びくつと喘ぐ】

あっ……♡

■性器と性器が重なり合っている実感がある。とても気持ちいい

【恥ずかしそうに、でも嬉しそうに】

重なっ……てる……♡

【※6回※ 呼吸する。

荒く、ゆっくり呼吸する。ものすごく興奮している感じで】

はあ、はあ、はあ。

はあ、はあ、はあっ……♡「

SE12 結月の乳首から母乳が噴射する音2

【最初から最後まで流す】

【やや大きめの音量で流す】

【次の『結月』のセリフと同時に流す】

●正面 30センチ 下 50センチ

「低めに、小さくびくつと喘ぐ」

ああっ……。

■貝合わせセックスの感想を述べる

【少し混乱して。思った以上に気持ちいいので】
何これ……。これ……。こんな感じなんだ……。
えっえっ？ ええっ……。？」

〈主人公〉

「……もうさあ、いいから黙っとけ？ ♡

今は全部。私の好きにさせる ♡」

●正面 30センチ 下 50センチ

■主人公の言葉に、物凄く興奮する。主人公に主導権を握られて、好きなようにされていくシチュエーションにめちゃくちゃ興奮するので。

また、主人公は実際にそう思っているというより、自分に配慮してそういった言葉選びをしてくれたのだらうという事もわかる。それがより、結月の興奮を煽る

「高く、気持ちよさそうに喘ぐ」

あ………♡

「うっとり、実感を込めて。とても気持ちよさそうに」

すごい気持ちいい………♡

【※4回※ 呼吸する。

荒く、ゆっくり呼吸する。ものすごく興奮している感じで」

ふーっ♡ ふーっ♡

ふーっ♡ ふーっ………♡

〈主人公〉

「……とはいえ。私も……ちよつとやばいかも」

●正面 30センチ 下 50センチ

「ホッとした様子で。

嬉しそうに早口気味に」

貴方も？ 貴方ももう気持ちいい？」

〈主人公〉

「……うん。すっ……ごい。こんな感じなんだね……。
動かすよ」

●正面 30センチ 下 50センチ

■いよいよ動き方が本格化する。まさに『セックスしている』という感じ
「少し驚いて。動きが本格化してきたので。

小さく、びくつと喘ぐ」

……っあ!!♡」

▲1 ここでSE10の音量が一段階大きくなる

SE13 結月の乳首から母乳が噴射する音3

【最初から最後まで流す】

【やや大きめの音量で流す】

【次の『結月』のセリフと同時に流す】

●正面 30センチ 下 50センチ

「低く、物凄く気持ちよさそうに喘ぐ」

“あ……♡

【※特定のリズムをつけて動かされている感じで※
※12回※ 高く、物凄く気持ちよさそうに喘ぐ】

あ♡

あっ、あっ、あっ。

あ♡

あっ、あっ、あっ。

あ♡

……あ♡

あ♡ あ♡
「」

〈主人公〉

「……大丈夫？」

●正面 30センチ 下 50センチ

「【恥ずかしそうに、でも嬉しそうに】
ん、平気……。」

ていうか、やばい……♡
「」

〈主人公〉

「どっちよ？」

●正面 30センチ 下 50センチ

「【とてもあまあまに、嬉しそうに】

嬉しくて。幸せで。気持ちよすぎて、やばいって意味♥

【高く、物凄く気持ちよさそうに喘ぐ】

うあ♥

SE14 結月の乳首から母乳が噴射する音4

【最初から最後まで流す】

【やや大きめの音量で流す】

【次の『結月』のセリフと同時に流す】

●正面 30センチ 下 50センチ

「【※特定のリズムをつけて動かされている感じで※

※6回※ 高く、物凄く気持ちよさそうに喘ぐ】

あ ♡ あ ♡ あ ♡
あ ♡ あ ♡ あ ♡

【※8回※ 呼吸する。

荒く、気持ちよさそうに呼吸する】

はーっ、はーっ、はーっ、はーっ ♡

はーっ、はーっ、はーっ、はーっ ♡

【高く、物凄く気持ちよさそうに喘ぐ】

あああっ…：…凄…：…凄…：…：… ♡

【※特定のリズムをつけて動かされている感じで※

※9回※ 高く、物凄く気持ちよさそうに喘ぐ】

んっ ♡ んっ ♡ んっ ♡

んっ ♡ んっ ♡ んっ ♡

んっ ♡ んっ ♡ んう ♡
」

SE15 結月の乳首から母乳が噴射する音5

【最初から最後まで流す】

【やや大きめの音量で流す】

【次の『結月』のセリフと同時に流す】

●正面 30センチ 下 50センチ

「低めに、物凄く気持ちよさそうに喘ぐ」

あああ……あああ……あああ……あつ♡

ああ……凄……凄……気持ちいい♡

【※9回※ 喘ぎ交じりに呼吸する。

荒く、気持ちよさそうに呼吸する】

はあ、はあ、はあ。

はあ、はあ、ふうっ……。

んっ。んう、ふう……。

【ちよつともどかしそうに。

気持ちいいが、距離が遠いのが気になる】

ねえ……」

▲1 ここでSE10が一度フェードアウトする

SE16 結月が起き上がる音

【最初から最後まで流す】

〈主人公〉

「ん？ どした？」

● 正面 30センチ 下 50センチ 正面 15センチ

■ 性器を重ねた状態のまま、起き上がったてキスする

「※ぐいっと近づく※

仰向けになっていたのから、起き上がってそのままキスする感じで」
……あの……」

〈主人公〉

「ん？」

● 正面 15センチ 下 0センチ

「※さらに近づいて※

※1回※ キスする。自分から、触れるだけのキス」

ちゅ♡

「特にあまあまに、心を込めて。

※特に聞き手をドキッとさせるイメージで」
大好き……♡」

〈主人公〉

「わたしも、ゆづが大好き」

● 正面 0センチ

「※しばらく※ キスする。

あまあまな、恋人同士らしいキス」

んっ♡

ん♡ ん♡ んゝ……♡ んっ……♡

ちゅ♡ ちゅ♡

ちゅ♡ ちゅ♡ ちゅっ♡

れるっ……♡

「うっとりと幸せそうに」

キスって気持ちいいね……♡

「『この、』と言った後、そのままキスを始める。

※しばらく※ キスする。

お互いに舌を出して、先っぽを絡ませるゝ全体を絡ませるキス」
この、

れるるる……れるるる……れるるる……ちゅるっ♡

ひやひっばれふれひゅひゅるやひゅ、しゅき……♡

ちゅ♡

あんふ……れれっ♡

れるるる……れるるる……れるるる……♡

【うっとりと幸せそうに】

ああ……きもひいい……♡

【※しばらく※ キスする。

うっとり夢中でキスする。

お互いに舌を出して、先っぽを絡ませるゝ全体を絡ませるキス】

ちゅ♡ ちゅ♡ ちゅ♡ ちゅ♡

れるっ♡ れるっ♡ れるっ♡ れるるるるっ♡

ちゅ♡ ちゅ♡ ちゅ♡ ちゅ♡

【うっとりと幸せそうに。『しゅき』＝『好き』】

しゅき……♡ しゅき……♡

【※3回※ キスする。

うっとり夢中でキスする。

お互いに舌を出して、先っぽを絡ませるゝ全体を絡ませるキス」

ちゅ ♡ ちゅ ♡ ふちゅっ ♡」

SE17 主人公がベッドの上で動く音4

【最初から最後まで流す】

●正面 0センチゝ 正面0センチ 下30センチ

■キスを終えた主人公が、胸に顔をうずめてくる。

何をしたいのかはすぐにわかりそうなものだが、気持ちよすぎてぼんやりしているせいで、反応が遅れる

「【※自然と上に移動させられている感じで※ 動く。

気持ちよさそうにしつつ、きよんとして。

主人公が自分の頭の下へ頭をうずめてきたので」

ん……？ ♡

■胸に顔をうずめられ、片方の乳首を吸われる

【小さく、びくっと喘ぐ】

……あ！

【小さく、物凄く気持ちよさそうに喘ぐ】

……っあゝ……♡

【あまあまに、嬉しそうに。

にやにやと主人公の行動について述べる】

もお……♡ 何（なに）ゝ？♡

さっきあんなに吸ったのに♡ また吸いたいのぉ……？♡

そんなにっ♡ 吸うの、好きなのお……？♡

■『そうだ』とでも言うように、主人公がさらにしつかり乳首に吸い付いてきたので

【小さく、びくつと喘ぐ】

っあ♡

■急に、母性本能のようなものが強くわく。

主人公の事が可愛い、赤ちゃんのようだ、なんでもしてあげたいという気持ちになる

【あまあまに、嬉しそうに】

……しようがないなあゝ……♡

【とても優しく。

なんだか急に、母性本能が強くわいてくる】

いいよ……？♡

私のおっぱい飲んで♡

赤ちゃんになっていいよ？♥

【小さく、びくつと喘ぐ】

うあ♥

【高く、かわいく喘ぐ】

あ♥

あ♥ あっ♥

あ♥

【低く、すごく気持ちよさそうに喘ぐ】

“あ”あっ……♥

【低く、うっとり。】

段々早口気味になる】

きもちい……♥

おっばい好き……♥ おっばい好きおっばい好きい♥「

〈主人公〉

「……もっとしていい？」

● 正面0センチ 下30センチ

「あまあまに、嬉しそうに。

『気持ちいい、気持ちよくしてほしい』と『主人公を可愛がりたい』という気持ちが両方ある感じ」

うんっ♡ 一杯舐めて一杯吸って？♡

おっぱい気持ちいの。おっぱい好き♡
すっごい気持ちいいっ……♡

【※6回※ 呼吸する。

荒く、気持ちよさそうに呼吸する】

はあ、はあ、はあ。

はあ、はあ。はあ♡

■絶頂が近づくと絶頂する。また、乳首で絶頂する。

絶頂とともに、主人公が吸っている側の乳首は主人公の口の中に、吸っていない方は主人公の顔や髪にかける形で母乳を噴射する

【※マークまで※ 甘オホ声になる。

とても低く、すぐ気持ちよさそうに喘ぐ。

一行ごとに少し間があく感じで。

赤文字部分で、びくっと、あっさり絶頂する】

“あゝ……♡

ぎもちいい……♡

「♡ いっ♡♡♡♡♡ いっ♡♡♡♡♡ あっ♡♡♡♡♡ いっ……！♡♡♡」

SE18 結月の乳首から母乳が噴射する音6

【最初から最後まで流す】

【やや大きめの音量で流す】

【次の『結月』のセリフと同時に流す】

●正面0センチ 下30センチ

「♡ あゝ……♡♡♡♡♡」

一杯出てるぅ……♡♡♡♡♡

一杯出してごめんね♡♡♡

SE19 結月の乳首から母乳が噴射する音7

【最初から最後まで流す】

【やや大きめの音量で流す】

【次の『結月』のセリフと同時に流す】

●正面0センチ 下30センチ

「あゝ……♡ ※

【甘々に早口で。主人公の口の中、顔、髪に母乳をかけてしまった事を申し訳なく思いつつ、物凄く興奮している】

顔にもっ♡ かけてごめんね♡

貴方の事おっぱいまみれにして♡

嬉しくなっごめんね♡」

〈主人公〉

「はは、すっごいな……♡

めちやくちや燃える……♡」

SE20 結月の乳首から母乳が噴射する音8

【最初から最後まで流す】

【やや大きめの音量で流す】

【次の『結月』のセリフと同時に流す】

●正面 0センチ 下30センチ

■ 絶頂が近づくと絶頂する。また、乳首で絶頂する

「※マークまで※ 甘オホ声になる。

とても低く、すぐ気持ちよさそうに喘ぐ。

一行ごとに少し間があく感じで。

赤文字部分で、びくっと、あっさり絶頂する」

“あゝ……♡

出るうう……♡ 一杯出るうう……♡

“あ！♡

あ！♡

SE21 結月の乳首から母乳が噴射する音9

【最初から最後まで流す】

【やや大きめの音量で流す】

【次の『結月』のセリフと同時に流す】

● 正面 0センチ 下30センチ

「“あゝ♡♡ ※”

●正面 0センチ 下30センチ→正面 0センチ

【※すつと近づく※ 主人公が顔をあげて、キスして来る。

※5回※ キスする。

濃厚なあまあまキス。同時に、母乳を口移しされる】

んっ♡

ちゅっ♡ ちゅ♡

ちゅっ♡ ちゅぶうっ♡

【※3回※ 呼吸する。

荒く、気持ちよさそうに呼吸する】

はあ、はあっ。はあ♡

【恥ずかしそうに照れ笑いして。

主人公の口の中に残っていた母乳を舐めてしまった事を告白する】

ははっ。ちよつと口の中に残ってたの、飲んじやった……♡

こんな味、するんだね……♡

【小さく、びくつと喘ぐ】

……あ♡

【ものすごくあまあまに、嬉しそうに。

『気持ちいい、気持ちよくしてほしい』と『主人公を可愛がりたい』という気持ちが両

方ある感じ」

おまんこでも気持ちくなりたくなかった？♥

いいよ？♥

私の事使って♥ 気持ちくなっていいよ？♥

【※1回※ キスする。軽く触れるだけのキス】
ん♥

■自分の『主人公の好きなようにセックスしていい』という提案に主人公が首を振ったので。

【ものすごくあまあまに、嬉しそうに。

とにかく主人公が可愛くて仕方ないという感じで】

…一緒にいいの？♥ 一緒にきもちいのがいいの？♥

可愛い…♥」

▲3 ここでSE10が再開する

●正面 15センチ

■再び、貝合わせセックスする。だけどもうお互いに限界が近い感じ

「【※少しだけ離れて※

小さく、びくつと喘ぐ】

っあ♡

あ♡ あ♡ あ♡

【低く、すごく気持ちよさそうに喘ぐ】

“あゝ……♡

【うっとり】

はああ、あ。 凄い……♡

【※6回※ 呼吸する。

荒く、気持ちよさそうに呼吸する】

はっ♡ はっ♡ はっ♡

はっ♡ はっ♡ はあっ……♡

【※しばらく※ 低く、すごく気持ちよさそうに喘ぎながら話す】

“あゝ気持ちいい……♡

“あ♡

“あ♡

“あ♡

あ♡

ああ……擦れるの気持ちいいね♡ ぬるぬる凄いね♡

【※7回※ 高く、物凄く気持ちよさそうにあまあまに喘ぐ】

あっ♡ あっ♡ あっ♡ あっ♡

あっ♡ あっ♡ あっ♡

【※16回※ 呼吸する。

荒く早く、気持ちよさそうに呼吸する】

はーすう、はーすう、はーすう、はーすう♡

はーすう、はーすう、はーすう、はーすう♡

〈主人公〉

「ゆづ。好き……♡ 大好き……♡」

SE22 結月の乳首から母乳が噴射する音10

【最初から最後まで流す】

【やや大きめの音量で流す】

【次の『結月』のセリフと同時に流す】

●正面 15センチ

「【返事をしようとして、喘ぎ声のようになる】

あっ……っ あ♥

〈主人公〉

「めっちゃ気持ちいいね……♥」

● 正面 15センチ

「【ものすごくあまあまに、嬉しそうに。

とにかく主人公が可愛くて仕方ないという感じで】

うん♥

気持ちいい……気持ちいい……気持ちいいね……♥」

▲ 4 ここでSE10の音量と速度が一段階大きくなる

● 正面 15センチ

「【低く、すごく気持ちよさそうに喘ぐ】

うっ あ♥

【※3回※ 呼吸する。

荒く早く、気持ちよさそうに呼吸する】

はあ、はあ、はあ。

【※特定のリズムをつけて動かされている感じで※

※4回※ 高く、物凄く気持ちよさそうに喘ぐ】

あ♡ あ♡

あ♡

あ♡

【低く、すごく気持ちよさそうに話す】

“あゝこれ気持ちいい……♡

これ擦れるの♡

好き♡ 好き♡ 好き♡

すっごい腰動いちゃう……好き♡

好き♡ 好き♡

【『好き』が『すぎ』に濁る】

すぎっ♡「

SE23 結月の乳首から母乳が噴射する音11

【最初から最後まで流す】

【やや大きめの音量で流す】

とても低く、すごく気持ちよさそうに喘ぐ。

一行ごとに少し間があく感じで。

赤文字部分で、びくっと、あっさり絶頂する」

“あゝいく、”あゝいく、”あゝいぐっ”

気持ちいい……気持ちいい……気持ちいいよう……

う”あ！”

”あ！”

”あ……！”

【『擦るえっち』Ⅱ『貝合わせセックス』】

擦るえっちするの初めてなのにいくっ

”あゝいく、あゝいく、”あゝいく、いぐっ

イっ

【※特定のリズムをつけて動かされている感じで※

少し早めに、物凄く気持ちよさそうに喘ぐ】

あっあっあっあ

あっあっあっあ

”あゝ”

”あゝ”

“あゝっ……っ
イぐっ♡”

SE24 結月の乳首から母乳が噴射する音12

【最初から最後まで流す】

【やや大きめの音量で流す】

【3回繰り返して流す】

【次の『結月』のセリフと同時に流す】

●正面 15センチ

「イっ……ぐううううっ……っ♡♡※」

▲6 ここでSE10がフェードアウトする

●正面 15センチ

「【※9回※】呼吸する。

荒く早く、気持ちよさそうに呼吸する。

だんだんゆっくり、落ち着いていく」

はーっ♥ はーっ♥ はーっ♥ はーっ♥
はーっ……♥ はーっ……♥ はーっ……♥ はーっ……♥

【気持ちよすぎて訳が分からない感じで。

うわごとのように、気持ちよかった事を述べる】

ぎもちよがったあ……気持ち良すぎたあ……♥

● 正面 15センチ〜0センチ

【※ずっと近づいて※

※1回※ キスする。触れるだけのキス】

ちゅ♥

【あまあまに、苦しそうだが嬉しそうに】

凄いいね♥ 一緒にイけたね♥」

〈主人公〉

「うん……♥」

● 正面 0センチ

「甘々に嬉しそうに、少し早口気味に。

苦しいし疲れているが、とにかくこの結ばれた喜びを伝えたい、という感じで」

好きっ ♡

好き。好き。

【※話しながら1回※ キスする。触れるだけのキス】

だ〜い好き……ちゅ ♡

【うっとり幸せそうに。

でも、ちよつと必死に】

もう……これからはずっと一緒…… ♡ 一緒だからねっ…… ♡
「

ここでフェードアウトして終了。